

松本市の行政評価について

1 はじめに

時代に即した行政需要に的確に対応し、市民サービスのより一層の向上を図るとともに、第10次基本計画の着実な推進を図るため、新たな行政評価制度を実施しました。

2 行政評価とは

一般的に、「行政の活動を何らかの統一的な視点や手段によって客観的に評価し、その評価結果を行政運営に反映させるシステム」をいいます。

3 松本市の行政評価

(1) 位置付け

P D C A（Plan 計画→Do 実施→Check 評価→Action 見直し）という経営のマネジメントサイクルにおけるC機能として「事務事業の選択と集中」の具現化（業務の有効性及び効率性の確保）を図るシステムとして実施します。

(2) 目的

ア 成果を重視した評価によって事務事業効果を明確にし、総合計画の更なる推進、事務事業の効率的な実施等を図ること。

イ 事務事業の目的や成果を市民に公表することにより、行政としての説明責任を果たすこと。

(3) 実施内容

ア 内部評価 …… 庁内評価

イ 外部評価 …… 市民委員会

ウ 市民満足度調査 …… 市民を対象としたアンケート調査

(4) 内部評価

「事業の狙い」、「事業の内容・実績」、「指標の達成状況」、「コスト」、「現状に対する認識」を明確にし、事務事業の実施担当課が評価を行います。

(5) 外部評価（市民委員会）

市が自ら実施した内部評価を基に、施策の進捗状況を客観的な視点から検証します。

(6) その他

行政評価の結果については、実施計画、予算編成、行政改革を通して、翌年度以降の事務事業に反映することとしています。

4 市民委員会

令和3年度の市民委員会は、開催の必要性を改めて検討した結果、以下の理由から開催をしないこととしました。

- (1) 第10次基本計画の56の基本施策に対する外部評価(市民委員会)は、令和元年度ですべて終了しているため
- (2) 第10次基本計画の振り返りは、第11次基本計画を策定するに当たり市民アンケートやワークショップなどを通じて実施済のため

なお、第11次基本計画に対する市民意見は、松本市基本構想2030市民会議やパブリックコメントで聴取をしています。

5 今後の行政評価について

令和4年度以降の第11次基本計画に対する行政評価については、内部評価及び外部評価の実施手法を改めて検討します。

事務事業評価票

事務事業評価票の見方

事務事業名	民間企業との共創促進事業
-------	--------------

<予算上の位置付け>

会計名	一般会計
予算中事業名	民間企業との共創促進事業費

部局名	総合戦略局	課名	総合戦略室	課CD	02120000
-----	-------	----	-------	-----	----------

<第10次基本計画の位置付け>

まちづくりの基本目標	5	魅力と活力にあふれにぎわいを生むまち
政策の方向(まちの姿)	2	産業の活力を生み、伸ばすまち
基本施策(個別目標)	522	商業の振興
—	—	—

<市長公約・重点目標・総合戦略の位置付け>

市長公約	公約
主な取組み	
5つの重点目標	3 経済の好循環の創出
松本版総合戦略	④新しい働き方・雇用の創出

<事業の狙い>

事業計画年度	H30 ~
--------	-------

包括的連携協定に基づき、民間企業との共創による新たな事業創出を検討することによって、行政と民間企業との共創の仕組みを整える。

<事業の実施内容及び活動指標(実績値)>

- 取組内容

包括的連携協定に基づき、民間企業との共創による新たな事業創出を検討することによって、行政と民間企業との共創の仕組みを整える。
- 連携強化分野
 - 木質バイオマス等の再生可能エネルギー分野
 - ヘルスケア分野

※令和元年度までの多岐に渡る事業創出から分野の絞り込みを実施
- 取組みの成果
 - 生活習慣病予防に向けたAGEsセンサーの導入

協定締結企業が開発した、生活習慣病の予防に活用できる測定器2台を松本ヘルスラボを通じて購入し、健康づくり課、松本ヘルスラボで健康づくり事業等に活用
 - 包括連携協定締結企業との事業創出に関する協議

合計5回にわたる協議を実施、スーパーシティ構想を推進する観点から、エネルギー分野及びヘルスケア分野での事業の創出に向けて調整しているため、具体的な事業の創出、成果は令和3年度以降

事業の具体的な実施内容と実績値

担当課の現状に対する認識

<現状に対する認識>

第11次基本計画での方向性 拡充(継続)・縮小・廃止
 事業担当部署が直面する課題に対して、民間からノウハウの提供を受け、改善していくことが望ましいが、現状、民間側からの提案が多い反面、市内部での課題の整理が不足しているため、事業担当部署からの課題の抽出を正確に行うことが課題
 スーパーシティ構想を推進する観点から、エネルギー分野及びヘルスケア分野における連携を強化しており、次年度以降、多数の事業化・成果を出すため、具体的な事業の創出について協議を重ねている。

<指標の達成状況>

		総合評価		C		
区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 成果指標(指標名)	事業創出分野	数(累計)				
	指標の設定理由	設定した数に基づき事業化の検討を行うため				
	目標値					7
	実績値					2
	達成度				20.0%	28.6%
② 成果指標(指標名)						
	指標の設定理由					
	目標値					
	実績値					
	達成度					

総合評価基準(%数値は成果指標の達成度)
 A:順調(80%以上)
 B:おおむね順調(60~79%)
 C:改善が必要(40~59%)
 D:大幅な事業改善が必要(20~39%)
 E:目標達成困難(20%未満)
 ※新型コロナウイルスの影響については、別紙参照

<コスト一覧>

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
① 事業費(千円)				108	100	0
	国・県					
	利用者負担金					
	その他					
	一般財源			108	100	0
② 人件費(千円)		人工	人工	1,510	人工	1,498
	正規			1,510	0.2	1,498
	※許年度任用(ワルタム、パートタイム2類)			0		0
合計コスト①+②		0	0	1,618	1,620	1,498
	前年度比	—	—	—	100.1%	92.5%

事業の内訳
 一般財源は、松本市が負担している事業費

事業に要した年間の人工
 人件費は、市の平均給与